

**InterSecVM/MWc V2.0 for Linux  
(NEC Cloud IaaS 用)**

**セットアップ手順説明書**

# はじめに

このたびは、『InterSecVM/MWc for Linux (NEC Cloud IaaS用)』をご契約頂き、まことにありがとうございます。

本書は、InterSecVM/MWc V2.0 for Linux (NEC Cloud IaaS用) (以降、本製品と表記します) のセットアップ手順をまとめたものであり、NEC Cloud IaaS(以降、NECCIと表記します)上で本製品のシステムを構築する管理者、システムエンジニア、保守員を対象にしています。ここでご紹介する構成のサンプルや設定例は、あくまで参考情報としてご提供するものであり、動作保証をするものではありません。

また、本製品は、以下2つの製品にて構成されており、セットアップ時に必要となりますのでご注意ください。

- ・ 『InterSecVM/MWc V2.0 for Linux (NEC Cloud IaaS用)』  
製品ライセンス ライセンスシートが含まれています。ご契約ごとにダウンロードしてご準備ください。
- ・ 『InterSecVM/MWc Media V2.0 for Linux (NEC Cloud IaaS用)』  
インストールモジュールおよびドキュメント類が含まれています。既に、ダウンロードしたファイルがあれば、そのままご利用いただけます。



本書で記載している NECCI 関連項目 (サービスや機能範囲など) の説明は、執筆時の情報に基づくものです。  
NECCI 関連項目は、NECCI サービス提供者により修正されている場合がありますので、本書と併せて NECCI サービス提供者が公開する情報も確認ください。

## 本書の表記規則

本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[ ] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語（ダイアログ ボックス、メニューなど）の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログボックス
\$ コマンド	Linux ユーザが、一般ユーザでログインしていることを示すプロンプト	\$ sudo umount
# コマンド	Linux ユーザが、root でログインしていることを示すプロンプト	# cd /var/log
モノスペース フォント (courier)	パス名、コマンドライン、システムからの出力（メッセージ、プロンプトなど）、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	/var/log
モノスペース フォント <b>太字</b> (courier)	ユーザが実際にコマンドラインから入力する値を示します。	以下を入力します。 <b>admin</b>
モノスペース フォント <b>斜体</b> (courier)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	rpm -i mw_Module-<バージョン番号>-<リリース番号 >.x86_64.rpm

## 用語の説明

本書で記載している用語について説明します。

### NEC Cloud IaaS サービス関連

用語	説明
ハイアベイラビリティ(HA)	NEC Cloud IaaS が提供するサーバ単体で高性能・高信頼を実現する IaaS サービスです。CPU 数やメモリ容量、ディスク容量等、拡張性の高いハイスペックなサーバの調達が可能で、仮想化基盤や運用システムには、信頼性の高い商用システムを採用しています。
テナント	NEC Cloud IaaS の利用者を識別する単位のことです。ひとつの法人であっても、組織やプロジェクトごとに複数の契約を締結した場合は、複数のテナントとなります。

### InterSecVM/MWc関連

用語	説明
システム管理者	InterSecVM/MWc をセットアップしたサーバ全般の管理権限を持ちます。
ドメイン管理者	システム管理者が作成したドメイン（実ドメインや仮想ドメイン）毎の管理権限を持ちます。既定は、システム管理者がドメイン管理者になります。
一般ユーザ	ドメインに所属するメールアカウントを持つユーザです。
ドメイン （実ドメイン、 仮想ドメイン）	InterSec/MWc をセットアップしたサーバでのメールドメインに相当します。実ドメインは、サーバのホスト名 FQDN です。仮想ドメインは、サーバがメールの送受信の管理対象となるドメイン名です。
Management Console	InterSecVM/MWc の Web 管理画面の名称です。

## 法的情報

- Copyright © NEC Corporation 2016
- NEC、NECロゴは、日本およびその他の国における日本電気株式会社の商標および登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Linux は Linus Torvalds の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。
- そのほかの会社名ならびに商標名は各社の商標または登録商標です。なお、本文中ではTMや®は明記していません。
- 本書の内容は、日本電気株式会社が開示している情報の全てが掲載されていない場合、または他の方法で開示された情報とは異なった表現をしている場合があります。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。本書の制作に際し、正確さを期するために万全の注意を払っておりますが、日本電気株式会社はこれらの情報の内容が正確であるかどうか、有用なものであるかどうか、確実なものであるかどうか等につきましては保証致しません。また、当社は皆様がこれらの情報を使用されたこと、もしくはご使用になれなかったことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。本書のいかなる部分も、日本電気株式会社の書面による許可なく、いかなる形式または電子的、機械的、記録、その他のいかなる方法によってもコピー再現、または翻訳することはできません。

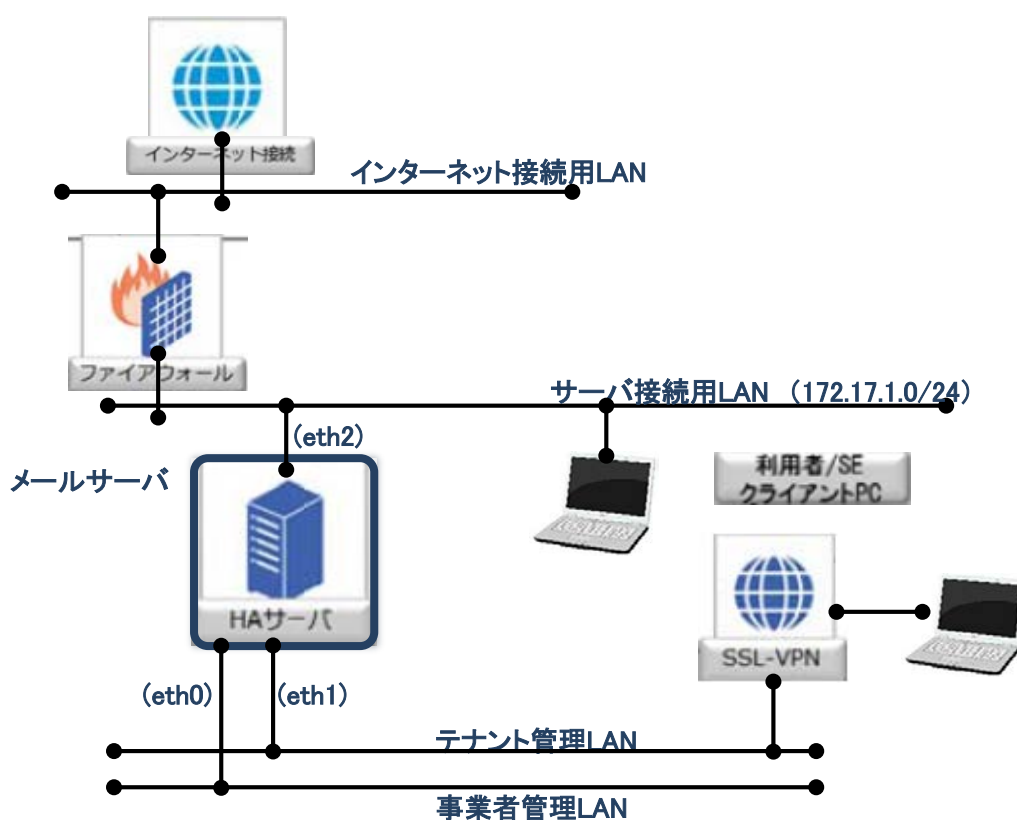
# 目次

1章 概要	1
1.1. 事前準備	2
2章 動作要件	3
2.1. NECCIサービス	3
2.2. ハイアペラビリティ (HA) の仮想サーバ仕様	3
3章 セットアップ手順	4
3.1. 仮想サーバの準備	4
3.1.1. SSH鍵の作成	4
3.1.2. サーバ接続用LANの作成	4
3.1.3. 仮想サーバの作成	4
3.1.4. ファイアウォールの設定	6
3.2. InterSecVM/MWcのインストール	7
3.2.1. SSH接続	7
3.2.2. InterSecVM/MWcのインストール	8
3.3. 製品ライセンスの登録	9
3.3.1. Management Consoleへの接続	10
3.3.2. 製品ライセンスの登録	11
3.4. システム管理者情報の変更	12
3.4.1. パスワードの変更	13
4章 注意事項	14

# 1章 概要

本製品は、メールサーバを構築するためのアプライアンス化ソフトウェアです。本製品を NEC Cloud IaaS（以降 NECCI と表記します）で提供される Linux 仮想サーバにセットアップすることにより、メールサーバシステムを構築することができます。本製品をセットアップした Linux 仮想サーバは、本製品が提供するメールサーバ専用として利用してください。他のソフトウェア等がインストールされた場合、本製品の機能が正常に動作しなくなる可能性があります。

## InterSecVM/MWcシステム構成イメージ



- メールサーバ(仮想サーバ)は、ハイアベイラビリティで作成します。
- 仮想ファイアウォールを使用します。
- インターネット接続を使用します。
- メール送受信にSMTP(TCP/25番ポート)を外部公開します。
- メールサーバのオンラインアップデート用にHTTP(TCP/80番ポート)、HTTPS(TCP/443番ポート)への外部接続を許可します。
- 保守作業は標準提供されるSSL-VPN 経由とします。

## 1.1. 事前準備

本書における本製品のセットアップ作業にあたっては、以下の準備が行われていることを確認ください。NECCIへのアクセスは、インターネット経由とVPN経由の2種類があります。

- 本製品
  - ✓ インストールパッケージ格納ファイル
  - ✓ InterSecVM/MWc 『管理者用パスワード』
  - ✓ InterSecVM/MWc 『製品ライセンス』
- NECCI環境の利用環境
  - ✓ NECCIの利用の準備（運用管理者アカウントの作成など）



本書で記載している NECCI 関連項目（サービスや機能範囲など）の説明は、執筆時の情報に基づくものです。NECCI 関連項目は、NECCI サービス提供者により修正されている場合がありますので、本書と併せて NECCI サービス提供者が公開する情報も確認ください。

NEC Cloud IaaS の詳細については以下を参照ください。

< [http://jpn.nec.com/cloud/service/platform\\_service/iaas.html](http://jpn.nec.com/cloud/service/platform_service/iaas.html) >



## 2章 動作要件

本製品の利用に必要な環境、要件について説明します。

### 2.1. NECCI サービス

本製品の構築には、以下の NECCIサービスを利用します。

- ・ 基本サービス
  - サーバサービス (NEC Cloud IaaS(HA))
  - ネットワークサービス
- ・ オプションサービス
  - ストレージサービス (データディスク(HA 用))
  - ネットワークサービス (インターネット接続)

### 2.2. ハイアペラビリティ(HA)の仮想サーバ仕様

本製品を構築する際の要件は以下の通りです。

表. 仮想サーバ要件

項目	要件
イメージ(仮想サーバ)	Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4
仮想CPU	4GB以上(4,8,16,32GB)を選択します。
システムディスク	メモリに応じて割り当てられます。
セキュリティ	以下のポートへの接続を許可します。 <ul style="list-style-type: none"><li>- SSH (TCP/22 番ポート)</li><li>- SMTP (TCP/25 番ポート)</li><li>- TCP/50453、50443、50200~50399 番ポート (※)</li></ul> (※) 本製品のManagement ConsoleへのHTTPS接続に使用します。

## 3章 セットアップ手順

本製品をご利用いただくためのセットアップ手順を説明いたします。  
本製品のセットアップには、以下4つの手順を順に実施していただく必要があります。

- ・「仮想サーバの準備」
- ・「InterSecVM/MWcのインストール」
- ・「製品ライセンスの登録」
- ・「システム管理者情報の変更」

### 3.1. 仮想サーバの準備

InterSecVM/MWcをご利用いただくための仮想サーバの作成手順について説明します。

#### 3.1.1. SSH 鍵の作成

仮想サーバへのSSH接続時に必要なSSH鍵をNECCI Portalの [リソース管理] - [サーバ管理] - [SSH鍵管理]から作成してください。

#### 3.1.2. サーバ接続用 LAN の作成

サーバ接続用LANのための仮想LANをNECCI Portalの[リソース管理] - [ネットワーク] - [仮想LAN]から作成してください。

#### 3.1.3. 仮想サーバの作成

InterSecVM/MWcをインストールする仮想サーバを、NECCI Portal [申請] - [新規申請] - [サーバ作成(HA)]から作成してください。

作成する仮想サーバで指定項目において、以下を指定してください。

サーバ種別	通常サーバ
イメージ	RedHat Enterprise Linux v6.4
スペック	(任意のサーバスペックを選択してください)
データディスク	(※次頁を参照してください)
ディスク種別	
容量	
SSH 鍵	(「3.1.1. SSH鍵の作成」で作成したもの)
仮想LAN	
ネットワーク名	(「3.1.2. サーバ接続用LANの作成」で作成したもの)

(上記以外の項目の指定内容は任意です)

## ※ データディスクの利用について

本製品をセットアップした仮想サーバでは、ドメインに所属する一般ユーザのメールの格納先としてデータディスクを利用します。本製品はデータディスクに以下のようなデータを格納します。

- メールデータ  
一般ユーザのメールデータを格納します。
- メーリングリストデータ  
メーリングリスト毎の設定ファイル、ログ、メールデータを格納します。

### ディスク種別：

以下3つの種別のデータディスクが提供されています。利用用途に応じて作成してください。

- ◇ データディスク(HDD High)  
仮想サーバで利用する標準的な性能要件のデータディスクとして提供されています。  
データディスク(HDD High)では、バックアップ機能(筐体内/外、遠隔地)の利用が可能です。最大、2000GBまで割り当て可能です。
- ◇ データディスク(SSD)  
仮想サーバで利用する高速データディスクとして、より高性能なデータディスクが提供されています。  
データディスク(SSD)では、バックアップ機能(筐体内/外、遠隔地)の利用が可能です。最大、400GBまで割り当て可能です。
- ◇ データディスク(HDD Low)  
仮想サーバで利用する廉価版のデータディスクとして、データディスク(HDD High)より低速ですが、コストパフォーマンスに優れたデータディスクが提供されています。  
データディスク(HDD Low)は、バックアップ機能の利用できません。  
最大、2000GBまで割り当て可能です。

### ディスク容量：

本製品のご利用用途に従って適切なサイズを指定してください。

- (例) 一般ユーザ数が1000人の利用で、ユーザ毎の最大メール保存容量が1GByteを想定した場合、1000Gbyte (=1000×1GByte) 以上のデータディスク容量が必要です。



指定するディスク容量は、仮想サーバに接続される仮想ディスクサイズです。OSが使用できるサイズはディスク容量より少なくなりますので、ディスク容量は少し大きいサイズを指定しておいてください。



本製品をセットアップしたサーバの運用用途がメール中継サーバ用途のみの場合は、データディスクの作成は不要です。

### 3.1.4. ファイアウォールの設定

インターネット接続用と内部ネットワーク接続用のファイアウォールを環境に応じて作成してください。

本製品をセットアップした仮想サーバで運用されるサービスおよびポートは以下の通りです。

サービス	プロトコル	ポート番号
SSH	TCP	22
SMTP	TCP	25
MWc管理コンソール(システム)	TCP	50453
MWc管理コンソール(ドメイン)	TCP	50443
MWc管理コンソール(ドメイン/一般ユーザ)	TCP	50200~50399

## 3.2. InterSecVM/MWc のインストール

本製品をご利用いただくために、作成した仮想サーバに本製品をインストールする手順を説明します。

事前に準備した本製品のセットアップに必要なダウンロードファイルを、以下の方法でインストール対象の仮想サーバに格納してください。

### Windowsクライアントから仮想サーバへの格納：

Windowsクライアントからscpコマンドをサポートするソフトウェアを使用して、intersecvmmwc\_v2.0-necci.imgを格納してください。ソフトウェアにより使用方法が異なりますので、そのマニュアル等を参照してください。

### Linuxクライアントから仮想サーバへのscpコマンドの実行例：

以下のコマンド実行によりadminアカウントのホームディレクトリにintersecvmmwc\_v2.0-necci.imgファイルを格納することができます。

```
scp -i key.pem intersecvmmwc_v2.0-necci.img admin@[仮想サーバ]
```

- ・ **key.pem**は、予め作成したキーペアを保存したファイル名を入力してください。
- ・ **仮想サーバ**は、仮想サーバのFQDNまたはIPアドレスを入力してください。FQDNを指定する場合は、クライアント側で名前解決できることが前提です。
- ・ **仮想サーバ**の後ろはコロン（:）を入力してください。  
コロンの入力がない場合、scpコマンドは、クライアント上のカレントディレクトリに“admin@[仮想サーバ]”という名前でコピーします。

### 3.2.1. SSH 接続

仮想サーバへのSSH接続は、予め作成したキーペアを使用したRSA/DSA鍵による接続を行ってください。

作成した仮想サーバのログインアカウント名は「admin」です。

ログイン後、ホームディレクトリに「intersecvmmwc\_v2.0-necci.img」ファイルが格納されていることを確認してください。



仮想サーバにログインした後、本書セットアップ手順が完了するまでは、システムのアップデート（‘yum update’ コマンドの実行など）は行わないでください。

本製品のインストールや以後の動作において、システムにインストールされているパッケージバージョンを指定している場合があります。その為、アップデートされた場合、本製品が正常に動作しなくなる可能性があります。

### 3.2.2. InterSecVM/MWc のインストール

SSHログインしたコマンド画面から次頁手順に従ってのコマンドを実行し本製品をインストールしてください。



本製品のインストール実施前に、以下のことを確認してください。  
・本製品以外のソフトウェアのインストールやシステムの設定変更は行わないでください。

(1) インストール用イメージファイルをマウントしてください。

```
$ sudo mkdir /mnt/intersec
```

```
$ sudo mount -r -o loop intersecvmmwc_v2.0-necci.img /mnt/intersec
```

※ コマンド行頭の '\$' はプロンプトです。プロンプト文字を除いて実行してください（以下同様です）。

(2) インストールスクリプトを実行してください。

```
$ cd /mnt/intersec/
```

```
$ sudo sh install
```

インストールが開始されると以下のメッセージが表示されます。

```
"The InterSecVM/MWc V2.0 for NECCI' installer was start.
```

インストールが終了すると以下のメッセージが表示されます。

```
"The InterSecVM/MWc V2.0 for NECCI' installer was ended.
```

(3) インストール用イメージファイルをアンマウントしてください。

```
$ cd
```

```
$ sudo umount /mnt/intersec
```

インストールが完了したらインストール用イメージファイル不要になりますので、以下のコマンドでファイルを削除してください。

```
$ rm intersecvmmwc_v2.0-necci.img
```

以上で本製品のインストールは終了です。

本製品の利用を可能にするためには、Management Consoleに接続して、本製品のライセンスを登録する必要があります。続けて次項「3.3. 製品ライセンスの登録」を実施

してください。

### 3.3. 製品ライセンスの登録

本製品の利用を可能にするために『InterSecVM/MWc Management Console』（以降、Management Consoleと表記します）に接続して、製品ライセンスを登録してください。Management ConsoleはWeb画面です。WindowsクライアントPC（以降、クライアントPCと表記します）のWebブラウザから接続してください。



Management Console 接続は、以下の Web ブラウザで確認しています。

- ・ Internet Explorer 11

### 3.3.1. Management Console への接続

(1) クライアント PC の Web ブラウザから以下の URL に接続してください。

https://*仮想サーバ*:50453/

- ・ “*仮想サーバ*”は、仮想サーバのFQDNまたはIPアドレスを入力してください。FQDNを指定する場合は、クライアント側で名前解決できることが前提です。



本製品に対し、ポート NAT 変換等を行い、本製品の Management Console(ポート 50453)に接続できるように設定を行ってください。ポート NAT 変換を行う場合、接続ポートは TCP/50453 番を指定してください。

(2) Management Console のログイン画面が表示されます。

アカウント名にシステム管理者名、パスワードに以下の値を入力して、[ログイン]をクリックしてください。

アカウント名 : **intersec**  
パスワード : **初期パスワード**(※)



- ・ アカウント名、パスワードは、大文字・小文字を区別します。
- ・ 「初期パスワード」は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しています。



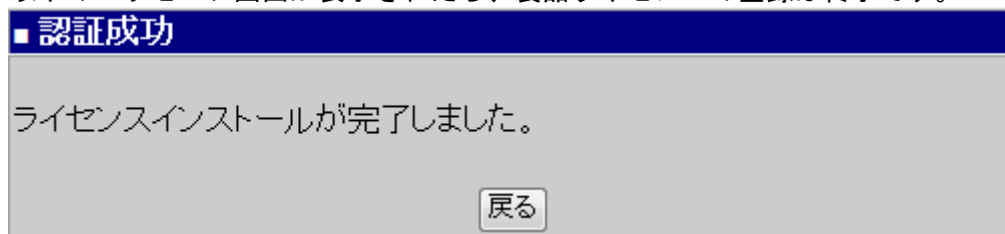
### 3.3.2. 製品ライセンスの登録

- (1) Management Console にログインすると「製品ライセンス」画面が表示されます。  
「製品ライセンス ライセンスシート」に記載しているライセンス認証番号を入力して、[認証送信]をクリックしてください。



本製品に登録するライセンス認証番号は、本製品の製品ライセンス ライセンスシートに記載しています。  
製品ライセンス ライセンスシートに記載されているライセンス認証番号を確認してください。

以下のメッセージ画面が表示されたら、製品ライセンスの登録は終了です。



[戻る]をクリックすると、Management Consoleのトップ画面が表示されます。

本製品の利用にあたっては、「システム管理者パスワードの変更」を行っておくことを強く推奨いたします。

次頁の「3.4. システム管理者情報の変更」を実施してください。

### 3.4. システム管理者情報の変更

本製品のセットアップ直後ではシステム管理者パスワードは初期パスワードが設定されています。本製品への不正なログインを防止するためにも、システム管理者パスワードを以下の手順で変更してください。

- (1) Management Console にログインしてください。  
前項「3.3.2.」から続いて操作されている場合は、すでにログインされた状態になっています。
- (2) メニュー[システム管理者]をクリックしてください。  
「システム管理者設定」画面が表示されます。

システム管理者設定

システム管理者設定 [ヘルプ](#)

■パスワード設定

システム管理者名: intersec

パスワード:

パスワード再入力:

設定

■メール設定

メールを転送する

メールを転送する

メール転送先(標準転送)

メール転送先(フィルタリング転送)

添付ファイル転送  転送しない、  文字まで

その他

図. システム管理者設定画面

### 3.4.1. パスワードの変更

- (1) 「■パスワード設定」欄の「パスワード」「パスワード再入力」に新しいパスワードを入力して、[設定]をクリックしてください。  
メールの転送設定と合わせて[設定]をクリックすることはできません。

項目名	説明
システム管理者名	システム管理者アカウント名を設定してください。既定値は「intersec」です。
パスワード/ パスワード再入力	システム管理者アカウントのパスワードを設定してください。 既定は初期パスワードです。セキュリティ向上のため、パスワードの変更は必ず行ってください。

以上で本製品の運用準備は終了です。

ご利用の機能に関する設定を行ってください。各種サービスやシステムの設定方法については『InterSecVM/MWc V2.0 for Linux (NEC Cloud IaaS用) ユーザーズガイド』をご参照ください。

## 4章 注意事項

本製品のご利用にあたっては、以下の点にご注意ください。

- 本製品をインストールした仮想サーバに他の製品をインストールして使用することは保証しません。
- CLUSTERPRO Xによる冗長化構成は構築できません。
- 本製品は、オートスケール(スケールアウト/スケールイン)に対応していません。